地域課題分野（河川生態）　提出書類の様式

**ＦＳ研究（新規課題）**

**一般研究（ＦＳ研究からの移行課題）**

**一般研究（継続課題）**

＜内容＞

* 別紙地生-I 応募書類申請票
* 様式地生-1 地域課題分野公募（河川生態）　応募様式（その１）
* 様式地生-2 地域課題分野公募（河川生態）　応募様式（その２）
* 様式地生-3 地域課題分野公募（河川生態）　応募様式（その３）
* 様式地生-4 技術研究開発年次計画・経費の見込み
* 様式地生-5 研究年度（平成〇年度、一般研究第○年目）の必要経費概算
* 様式地生-6 研究者データ（共同研究者全員分）
* 様式地生-7 成果の要旨
* 様式地生-8 当該年度における成果公表等の状況
* 様式地生-9 自己評価結果（研究代表者用）
* 様式地生-10 河川砂防技術研究開発【成果概要】
* 様式地生-11 河川砂防技術研究開発【成果の要点】
* 別紙地生-II 技術研究開発年次計画・経費の見込み（記入例）
* 別紙地生-III 研究者データ（記入例）
* 別紙地生-IV 技術研究開発成果等作成要領
* 別紙地生-V 様式作成にあたっての留意事項

＜注意事項＞

* 応募書類は、日本語で作成して下さい。指定した枚数を超えることや枠をはみだして作成することは認めません。また、文字の大きさについても読みやすい文字の大きさとして下さい。該当する記載内容がない項目には「無し」等と記入して下さい。
* 提出内容にもれがないこと、また、別紙地生-V「様式作成にあたっての留意事項」を確認の上、提出して下さい。
* 研究年度（令和〇年度）などの〇には適宜数字を記載して下さい。
* 事務局から受理した旨をメールにて送信します。提出後7日経っても受理メールが来ない場合は、お手数ですが事務局へご連絡願います。
* 令和4年度以降に継続する際に、新たな項目や内容について提出頂く場合があります。
* 新規課題の提出書類等について
1. 応募時は別紙地生-I及び様式地生-1～地生-6を、研究成果は様式地生-7～地生11を記載し、提出して下さい。
2. 用紙は、Ａ４版を利用し、左とじにして下さい。
3. 提出部数は、2部（正1部、写1部）及び電子データ１部(wordデータ等) を提出願います。
* 移行課題、継続課題の提出書類について
1. 次年度以降、継続して応募する場合、原則として本年度提出した様式を加筆・更新して提出してください。ただし、採択されたテーマについては、評価委員会による中間評価（複数年度にわたる場合）を実施します。中間評価の結果、研究目的の達成が困難であると判断されたものについては本制度による技術研究開発を終了します。
2. 法人の概要、研究開発に係る事業部、研究所等の組織、事業内容、研究内容等ついて、過去の提出書類から大きな変更がある場合のみ、変更に関する書類のみ添付してください。

別紙地生-I

応募書類申請票

応募書類受理番号（事務局で記載：　　　　　　　　　）

研究テーマ名:

平成　　年　　月　　日

法人名：

代表者名：

所在地：〒000-0000　○○県○○市…

研究代表者：所属

　　　　　　役職名

　　　　　　氏名

　　　　　　住所　　〒000-0000　○○県○○市…　　（勤務先・自宅）

　　　　　　TEL

　　　　　　FAX

　　　　　　E-Mail

応募書類チェックリスト

□応募書類　１式　（「河川砂防技術研究開発公募実施要領」のの該当箇所を参照）

　　□応募書類の電子データ　１部

　　□法人の概要　１部

　　□研究開発に係る事業部、研究所等の組織、事業内容、研究内容等　１部

※別紙地生-I「応募書類申請票」は、下線部分について記載して下さい（下線は消去可）。また、研究代表者の氏名の横に、研究代表者の押印をお願いします。

様式地生-1

| **地域課題分野（河川生態）公募　応募様式（その１）** |
| --- |
| 1. 研究種別
 | FS研究（新規課題）、一般研究（FS研究からの移行課題）、一般研究（継続課題）※上記いずれか1つの研究種別を残し、他を削除してください。 |
| ②研究課題 |  |
| ③研究テーマ名 |  |
| ④研究代表者 | 氏名 |  | 職名 |  |
| 専門分野 |  |
| 所属機関名（勤務先） |  |
| ⑤研究の概要 | 【ＦＳ研究応募時に記載】課題解決性、新規性・将来性、実現可能性の視点にも着目して記載して下さい。※ＦＳ研究の応募時に提出された当初の内容を変更せず記載してください。（背景・課題）（研究目的）（ＦＳ研究の内容と期待される成果の概要）（このFS研究から一般研究に移行することを想定した場合の研究内容と期待される成果の概要）（研究成果の河川整備・管理への反映）研究成果がどのように河川整備や管理実務に生かされるのかを明確に記載してください。 |

様式地生-1

|  |
| --- |
| **地域課題分野（河川生態）公募　応募様式（その１）** |
| ⑤研究の概要 | 【一般研究移行時に記載】※ＦＳ研究の成果を踏まえて、前ページの内容を修正・加筆してください。（背景・課題）（研究目的）（ＦＳ研究の内容とそこで得られた成果の概要）※詳細な内容は様式地生−８に記載して下さい。（一般研究の内容と期待される成果の概要）（研究成果の河川整備・管理への反映）研究成果がどのように河川整備や管理実務に生かされるのかを明確に記載してください。 |

様式地生-1

|  |
| --- |
| **地域課題分野（河川生態）公募　応募様式（その１）** |
| ⑤研究の概要 | 【一般研究継続時に記載】※現在までの研究成果を踏まえて、前ページの内容を修正・加筆してください。（背景・課題）（研究目的）（一般研究の内容と期待される成果の概要）（研究成果の河川整備・管理への反映）研究成果がどのように河川整備や管理実務に生かされるのかを明確に記載してください。 |

様式地生-2

|  |
| --- |
| **地域課題分野（河川生態）公募　応募様式（その２）** |
| ⑤’ＦＳ研究の目標と研究計画 | 【ＦＳ研究応募時に記載】【ＦＳ研究の目標】ＦＳ研究の目標の内容を具体的かつ詳細に（数値的目標等）を記載して下さい。（例）○○を明確にすることにより、○○を行うための目標を得ることができる。　　　・　　　・　　　・　　　・　　　・　　　・【ＦＳ研究の研究計画】上記の目標における計画及び成果を具体的かつ詳細にを記載して下さい。（例）○○手法の開発により、○○という研究成果を得ることができる。　　　・　　　・　　　・　　　・ |

様式地生-2

|  |
| --- |
| **地域課題分野（河川生態）公募　応募様式（その２）** |
| ⑥一般研究の目標と研究計画 | 【ＦＳ研究応募時に記載】※以下の目標や計画については、ＦＳ研究から一般研究へ移行する場合を想定して、簡潔に概要を書いて下さい。※３枚以内とします。【一般研究の目標】※一般研究は、最大で５年ですのでご注意下さい。※最終年は、単年度の目標を記載するとともに、研究全体の目標を総括的に記載してください。（＜一般研究１年目＞の目標の概要）　　　・　　　・　　　・　　　・（＜一般研究２年目＞の目標の概要）　　　・　　　・　　　・　（＜一般研究〇年目＞の目標の概要）　　　・　　　・　　　・　　　・（＜一般研究５年目＞の目標の概要）　　　・　　　・　　　・　　　・　　　・【一般研究の研究計画】（＜一般研究１年目＞の研究計画の概要）　　　・　　　・　　　・　　　・（＜一般研究２年目＞の研究計画の概要）　　　・　　　・　　　・　（＜一般研究〇年目＞の研究計画の概要）　　　・　　　・　　　・　　　・（＜一般研究５年目＞の研究計画の概要）　　　・　　　・　　　・　　　・　　　・　 |

様式地生-2

|  |
| --- |
| **地域課題分野（河川生態）公募　応募様式（その２）** |
| ⑥一般研究の目標と研究計画 | 【一般研究移行時に記載】【一般研究の目標】※ＦＳ研究の成果を踏まえて、前ページの内容を修正・加筆してください。※３枚以内とします。※最終年は、単年度の目標を記載するとともに、研究全体の目標を総括的に記載してください。（＜一般研究１年目＞の目標）　　　・　　　・　　　・　　　・（＜一般研究２年目＞の目標）　　　・　　　・　　　・　（＜一般研究〇年目＞の目標）　　　・　　　・　　　・　　　・（＜一般研究５年目＞の目標）　　　・　　　・　　　・　　　・　　　・【一般研究の研究計画】※（＜一般研究１年目＞の研究計画）　　　・　　　・　　　・　　　・（＜一般研究２年目＞の研究計画）　　　・　　　・　　　・　（＜一般研究〇年目＞の研究計画）　　　・　　　・　　　・　　　・（＜一般研究５年目＞の研究計画）　　　・　　　・　　　・ |

様式地生-2

|  |
| --- |
| **地域課題分野（河川生態）公募　応募様式（その２）** |
| ⑥一般研究の目標と研究計画 | 【一般研究継続時に記載】【一般研究の目標】※現在までの研究成果を踏まえて、前ページの内容を修正・加筆してください。※３枚以内とします。※最終年は、単年度の目標を記載するとともに、研究全体の目標を総括的に記載してください。（＜一般研究１年目＞の目標）　　　・　　　・　　　・　　　・（＜一般研究２年目＞の目標）　　　・　　　・　　　・　（＜一般研究〇年目＞の目標）　　　・　　　・　　　・　　　・（＜一般研究５年目＞の目標）　　　・　　　・　　　・　　　・【一般研究の研究成果と計画】※当該年度の研究成果の詳細な内容は、様式地生−８に記載して下さい（＜一般研究１年目＞の研究成果または計画）　　　・　　　・　　　・　　　・（＜一般研究２年目＞の研究成果または計画）　　　・　　　・　　　・　（＜一般研究〇年目＞の研究成果または計画）　　　・　　　・　　　・　　　・（＜一般研究５年目＞の研究計画）　　　・　　　・　　　・　　　・ |

様式地生-3

|  |
| --- |
| **地域課題分野（河川生態）公募　応募様式（その３）** |
| ⑦研究実施体制 | 適正な人員配置による実施体制であることを図示などによりわかりやすく説明してください。⑥「一般研究の目標と研究計画」や⑪「共同研究者」、様式地生-4「技術研究開発年次計画・経費の見込み」とも研究項目名等の整合を図り記載して下さい。※体制が途中で変化した場合は、その前後の状態をともに記載して下さい。 |

様式地生-3

|  |
| --- |
| **地域課題分野（河川生態）公募　応募様式（その３）** |
| ⑧共同研究する地方整備局等 |  |
| ⑨上記地方整備局等との現時点での調整状況・今後の見通し |  |
| ⑩上記地方整備局等とのこれまでの連携や共同研究等の実績 |  |
| ⑪共同研究者 | 氏　　名 | 所属機関・役職 | 研究分担内容 |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

※博士後期課程に在学中の研究者は、共同研究者となることができます。

様式地生-4

技術研究開発年次計画・経費の見込み

（研究テーマ名：　　　　　　　　　　　　　　）

（　　）に様式地生-1「③研究テーマ名」を記載してください

* 別紙地生-IIの記入例を参考に記入してください。

単位：千円

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 研究項目 | R○年度 | R○年度 | R○年度 | R○年度 | R○年度 | R○年度 | 経費の総額 |
|  | 【FS研究】 | 【一般研究】 | 【一般研究】 | 【一般研究】 | 【一般研究】 | 【一般研究】 |  |
| 1. 直接費
 |  |  |  |  |  |  |  |
| ②諸経費（上限（①×30%）） |  |  |  |  |  |  |  |
| 消費税 |  |  |  |  |  |  |  |
| 合　計 |  |  |  |  |  |  |  |
| うち外注費 |  |  |  |  |  |  |  |

注１）研究の一部を研究代表者（または共同研究者）の所属機関以外で実施（外注）する場合は、各研究項目における外注の範囲、予算規模が明確に分かるよう区分して下さい。

注２）研究年度の欄については様式地生-5の金額と整合をとるよう注意して下さい。

注３）①直接費と②諸経費の合計金額は、千円単位（千円未満は切り捨て処理）となるよう、調整を行って下さい。

注４）経費の総額が、応募分野の研究費用負担限度額（ＦＳ研究の場合500万円、一般研究の場合1,000万円）を超えていないことを確認して下さい。

様式地生-5

研究年度（令和○年度、一般研究第○年目）の必要経費概算

研究に必要な経費の概算額を｢委託研究処理科目区分表｣に定める科目区分に従って、記載して下さい。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項　　　目 | 金額（千円） | 積　算　内　訳 |
| ①人件費 |  |  |
| ②諸謝金 |  |  |
| ③旅費交通費 |  |  |
| ④庁　　　費1. 備品費
2. 借料及び損料
3. 印刷製本費
4. 賃金
5. 会議費
6. 外注費
7. その他
 |  |  |
| ⑤直　接　費（①＋②＋③＋④） |  |  |
| ⑥諸　経　費（上限（⑤×30%）） |  |  |
| ⑦小　　　計（⑤＋⑥） |  |  |
| ⑧消費税相当額（⑦×0.08） |  |  |
| 合　　　　計（⑦＋⑧） |  |  |

　※１　本様式は、研究年度（応募書類申請時の翌年度）の必要経費のみについて作成して下さい。

　　※２　⑦小計では、千円単位（千円未満は切り捨て処理）となるよう、調整を行って下さい。

※３　消費税相当額については、契約日時点での消費税率に従うものとします。

※４　採択された課題については、必要経費について詳細な内訳を提出していただきます。

委託研究処理科目区分表

|  |  |
| --- | --- |
| 科目区分 | 内　訳 |
| 直接費 | 委託研究に直接必要な人件費、諸謝金、旅費交通費、庁費である。 |
| 人件費 | 委託研究に直接従事する技術者（大学の招聘研究者、公益法人の職員又は民間会社の社員）及び所属機関の研究を支援するための職員等の人件費を積み上げ計上する。　ただし、国または地方公共団体からの交付金等で職員の人件費を負担している法人（国立大学法人、独立行政法人等）の職員は計上できない。 |
| 諸謝金 | 　委託研究に直接協力する者に対する報酬若しくは謝金で、時間数、人数及び回数を計上する。 |
| 旅費交通費 | 　委託研究に直接従事する技術者および直接協力する者の調査並びに会議等の出席に要する費用で、旅行先を記し、人数及び回数を計上する。 |
| 庁費 | 　委託研究に必要な次の（1）～（7）の項目について計上する。 |
| （1）備品費 | 　１点５０，０００円以上かつ長期の反復使用に耐える物品を、品目毎に積み上げ計上する。ただし、携帯電話、スマートフォン、タブレット及びデジタルカメラについては、上記に係わらず備品費として積み上げ計上する。※備品は、原則、本委託研究終了後に委託者へ返還することになります。 |
| （2）借料及び損料 | 　借り上げ機器等毎に、使用数量及び使用日時数に応じて積み上げ計上する。 |
| （3）印刷製本費 | 　成果品となる報告書および資料等毎に積み上げ計上する。 |
| （4）賃金 | 委託研究に直接従事する非常勤職員（アルバイト等）の雇用に要する費用について積み上げ計上する。 |
| （5）会議費 | 会場借り上げ等の費用について、使用回数、使用時間に応じて積み上げ計上する。 |
| （6）外注費 | 　調査、試験、実験、計算、製作、その他役務等を専門業者に再委託する場合は、委託項目毎に一式計上する。ただし、一式の内訳書(専門業者の見積書等)を添付すること。本制度においては、内部再委託は認められない。内部において必要となる人件費は、契約における研究従事者として登録して計上すること。 |
| （7）その他 | 　上記に該当しない経費で、費目毎に積み上げ計上する。(消耗品費等) |
| 諸経費 | 委託研究処理に必要な経費のうち直接費以外の諸経費について計上する。諸経費は、直接費×諸経費率(30%)を上限とする。ただし、研究者の所属する機関において規定等がある場合は、30%を上限に研究者の所属する機関において定められた方法により計上することができる。 |

様式地生-6

研　究　者　デ　ー　タ

※別紙地生-IIIを参考に記入して下さい。

※FS研究（新規課題）、一般研究（FS研究からの移行課題）:研究に参加する人数分の様式（様式地生-6）を作成してください。

※一般研究（継続課題）:研究年度以後の研究に参加する人数分の様式（様式地生-6）を作成して下さい。

１．氏名・生年月日

|  |  |
| --- | --- |
| ふりがな氏　　　名 | 生年月日（西暦） |
|  | 年　　月　　日 |

２．（所属機関がある場合）所属機関名・部署名・職名・連絡先

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 所属機関名（勤務先） |  | 部署名 |  |
| 職　　名 |  |
| 連絡先 | （〒　　　－　　　　） | TEL： |
| FAX： |
| E-mail： |

３．最終学歴

|  |
| --- |
|  |

４．研究歴（主な職歴と研究内容）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 年　月 | 職　歴 | 研究内容 |
|  |  |  |

様式地生-6

５．受賞歴、表彰歴

|  |  |
| --- | --- |
| 年　月 | 受賞名・内容 |
|  |  |

６．研究成果等

　・主な研究論文及び著書

|  |  |
| --- | --- |
| 1) |  |
| ・特許等取得件数：　　　　　件特許件名・研究成果： |

７．他の競争的資金制度、補助金等からの助成の有無

（財団法人の研究助成事業等、国以外が行っている助成制度も含む。）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 研究制度名 | 研究開発課題名 | 研究資金の額（単位：百万円） | 研究期間 |
|  |  |  |  |

８．研究活動における不正行為への対応状況確認

①　国土交通省の策定した「研究活動の不正行為への対応指針（平成２７年６月２日改正）」の第４章の１.研究活動における不正行為の未然防止及び２.研究機関における規程・体制の整備及び公表について、以下の該当する全ての項目にチェックしてください。（規程等は、契約締結時又は採択決定時に提出いただきます。）

□所属する研究機関は、不正行為を未然に防止する観点から、コンプライアンス（法令遵守）に関する規範において、研究活動における不正行為を行わない旨の研究倫理に関する規程を定めている。

□所属する研究機関は、研究倫理教育等研究活動における不正行為の未然防止のための組織的な取組を実施している。

□所属する研究機関は、研究活動における不正行為の疑惑が生じたときの調査手続きや方法等に関する規程や仕組み・体制等を適切に整備し、その状況について内外に公表している。

□所属する研究機関は、上記項目のいずれも実施していない。

　（理由を記載：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

②□申請者は、研究資金（他府省の競争的資金等含む）で、不正使用、不正受給又は不正行為を行ったとして、研究年度に「その交付の対象としないこと」とされていません。
（上記に該当する場合は、□にチェックしてください。）

申請者氏名

様式地生-7

成果の要旨（FS研究（新規課題））

|  |
| --- |
| 技術研究開発テーマ：技術研究開発代表者：　氏　名（所属） |

【成果の要旨】

　《ＦＳ研究の成果》

※様式地生-1に記載した期待される成果の概要に対する「不足点」など加味し、ＦＳ研究において得られた成果の概要を総括的に記載して下さい。

様式地生-7

成果の要旨（一般研究）

|  |
| --- |
| 技術研究開発テーマ：技術研究開発代表者：　氏　名（所属） |

【成果の要旨】

※様式地生-1に記載した期待される成果等に対する「不足点」などを加味し、総括的に記載して下さい。

　《当該年度の一般研究の成果の詳細》

　《当該年度までの一般研究の成果》

　《現時点において、一般研究終了年度に期待される成果》

様式地生-8

当該年度における成果公表等の状況（一般研究）

|  |
| --- |
| 技術研究開発テーマ：技術研究開発代表者：　氏　名（所属） |

国の技術研究開発においては技術研究開発成果を社会に還元させることを目的としていることから、成果の普及・活用状況について以下の調査項目に全てご回答いただきますよう宜しくお願い致します。

【研究成果としての事業化、製品化等の普及状況（予定も含む）】

|  |
| --- |
| どのように成果の普及を行っているのかを記載して下さい。 |

 【企業等とのタイアップ状況（予定を含む）】

|  |
| --- |
| 共同研究者ならびにその他成果の普及に関わる企業とのタイアップ状況を記載して下さい。 |

 【特許等、知的財産権の取得状況（予定を含む）】

|  |
| --- |
| 特許権、実用新案などの知的財産権の取得状況、出願状況について記載して下さい。 |

【研究成果による受賞、表彰等を幅広く記載（提出予定も含む）】

|  |
| --- |
| 成果による学会、協会、大学、企業等による受賞・表彰等について記載して下さい。 |

【今後の継続性について（予定を含む）】

|  |
| --- |
| 本制度の技術研究開発課題について、研究の継続性についての展望（あるいは既に実施していること）を記載して下さい。 |

【成果発表等】

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 原著論文による発表 | 左記以外の紙上発表 | 口頭発表 | 合　計 | 備　考 |
| 国 内 | 件 | 件 | 件 | 件 |  |
| 国 外 | 件 | 件 | 件 | 件 |  |
| 合 計 | 件 | 件 | 件 | 件 |  |

（注：既発表論文について記載し、投稿中の論文については括弧書きで記載のこと。また、その他の成果発表がございましたら備考欄に記載願います。）

上記の成果発表等における著者名及び論文名等

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 著者名 | 論文名 | 雑誌名(書名) | 巻号(頁） | 発行年 |
| 〇〇〇〇ほか | 〇〇〇〇〇〇〇〇〇 | 〇〇〇学会論文集 | 〇〇（P〇） | ○○〇年 |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |

【主要雑誌・新聞等への成果発表】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 雑　　　誌　　　名 | 時　期 | 出版社 |
| ○○月報 | 　年　月号 | ○○社 |
|  |  |  |
|  |  |  |

【その他】

|  |
| --- |
| その他の取り組みについて自由記述 |

様式地生-9

自己評価結果（研究代表者用、一般研究（FS研究からの移行課題））

|  |
| --- |
| 技術研究開発テーマ：技術研究開発代表者：　氏　名（所属） |

※現在までの研究における問題点及びその解決の方向性などを客観的に記載して下さい。

総合評価

以下の項目を総合的に評価

【コメント】（２００字以内で簡潔に）

Ⅰ．目標達成度について

当初の目標を達成することができたか。

【コメント】（２００字以内で簡潔に）

Ⅱ．研究計画について

研究計画、経費、研究制等の計画が適切であったか

【コメント】（２００字以内で簡潔に）

Ⅲ．研究成果について

1. 課題解決性

地域の研究者と河川管理者による共同研究を通して、河川管理の現場が抱える生態学的な課題の解決を図る実施計画案を策定することができたか。

【コメント】（２００字以内で簡潔に）

1. 新規性・将来性

河川管理の現場が抱える生態学的な課題に対して、新規の研究成果や将来性が期待できるか。

【コメント】（２００字以内で簡潔に）

・その他に、本制度に対する意見、提案等について

【コメント】（２００字以内で簡潔に）

様式地生-9

自己評価結果（中間評価の場合）（研究代表者用、一般研究（継続課題））

|  |
| --- |
| 技術研究開発テーマ：技術研究開発代表者：　氏　名（所属） |

※現在までの研究における問題点及びその解決の方向性などを客観的に記載して下さい。

なお、最終年の研究の場合には、成果及び不足点を踏まえた総括的な評価も記載して下さい。

総合評価

評価基準項目毎の評価を踏まえ研究継続の妥当性について総合的に評価

【コメント】（２００字以内で簡潔に）

Ⅰ．技術研究開発の進捗状況

研究開発の目的、目標を計画通り達成するため、研究開発が適切に進捗しているか。

【コメント】（２００字以内で簡潔に）

Ⅱ．研究成果の見通し

計画通りの研究成果が期待できるか

【コメント】（２００字以内で簡潔に）

Ⅲ．研究成果の導入、活用可能性

河川管理の現場が抱える生態学的な課題に対して研究成果を導入、活用することが可能であるか

【コメント】（２００字以内で簡潔に）

・その他に、本制度に対する意見、提案等について

【コメント】（２００字以内で簡潔に）

様式地生-9

自己評価結果（事後評価の場合）（研究代表者用、一般研究（継続課題））

|  |
| --- |
| 技術研究開発テーマ：技術研究開発代表者：　氏　名（所属） |

※現在までの研究における問題点及びその解決の方向性などを客観的に記載して下さい。

なお、最終年の研究の場合には、成果及び不足点を踏まえた総括的な評価も記載して下さい。

総合評価

以下の項目を総合的に評価

【コメント】（２００字以内で簡潔に）

Ⅰ．目標達成度について

当初の目標を達成することができたか。

【コメント】（２００字以内で簡潔に）

Ⅱ．研究計画について

研究計画、経費、研究体制等の計画が適切であったか

【コメント】（２００字以内で簡潔に）

Ⅲ．研究成果について

1. 課題解決性

地域の研究者と河川管理者による共同研究を通して、河川管理の現場が抱える生態学的な課題の解決に資する研究を推進することができたか。

【コメント】（２００字以内で簡潔に）

1. 新規性・将来性

河川管理の現場が抱える生態学的な課題に対して、新規の研究成果や将来性が期待できるか。

【コメント】（２００字以内で簡潔に）

・その他に、本制度に対する意見、提案等について

【コメント】（２００字以内で簡潔に）

様式地生-10

**河川砂防技術研究開発**

**【成果概要】**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 1. **研究代表者**
 | **氏　名**（ふりがな） | **所　属** | **役　職** |
|  |  |  |
| 1. **技術研究**

**開発テーマ** | 名称 |  |
| 1. **研究経費**（単位：万円）

※端数切り捨て。 | 　年度 | 　年度 | 　年度 | 　年度 | 　年度 | 　年度 | 総 合 計 |
| 万円 | 万円 | 万円 | 万円 | 万円 | 万円 | 万円 |
| **④研究者氏名** | （研究代表者以外の研究者の氏名、所属・役職を記入下さい。なお、記入欄が足りない場合は適宜追加下さい。） |
| 氏 名 | 所属機関・役職（※令和　年3月31日現在） |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
| **⑤研究の目的・目標**（様式地生-1、地生-2に記載した研究の目的・目標を簡潔に記入下さい。） |
| **⑥研究成果**（10頁程度） |

【様式地生-11】

○○○を用いた○○○○○○○○
○○○○に関する○○開発

A STUDY ON XXXX XXXXX XXX XXXXXXX XXXXXXX

研究代表者　○○○○（○○大学　教授）

It has been recognized that XXX XXXXXX XXXXXX XXXXXX. However, there are XXXXXX analysis.

In this study, we developed XXXXXX XXXXXX XXXXXX XXXXXX XXXXXX XXXXXX XXXXXX. By the methodology, XXXXXX XXXXXX XXXXXX XXXXXX XXXXXX.

***Key Words :*** *disruption of XXXX,* *YYY power, flood damage,*

*XXX estimation, ZZZZZ evaluation, XXXX analysis,*

1. 研究の背景・目的

（研究開始当初の背景・動機、目標　等）

1. ３カ年の研究内容

（研究の方法・項目等）　【途中段階の場合はその年度まで】

1. 研究成果

　（図表・写真等を活用し分かりやすく記述）

1. 今後の展望

（研究成果の活用や発展性、今後の課題等）

1. 河川等政策への質の向上への寄与

（研究成果の実務への反映の見込み等）

1. 主な発表論文及びホームページ等

（研究代表者はゴシック、共同研究者等は下線）

（以下、作成上の注意点）

(1) 本文部分のレイアウトとフォント

　本文は2段組で，上辺19 mm，下辺24 mm，左右のマージンは 20 mm ずつ，段と段との間のスペースは約 6 mm とします．

　本文には明朝体 10 pt フォントを用いて下さい．

(2) フッタ

すべてのページの下辺中央にフッタ機能を使ってページをつけて下さい．

(3) 脚注および注

　脚注や注はできるだけ避けて下さい．本文中で説明するか，もしくは本文の流れと関係ない場合には付録として本文末尾に置いて下さい．

(4) 数式および数学記号

数式や数学記号は次の式 (1a)

 (1a)

 (1b)

(3) 脚注および注

のように本文と独立している場合でも， のように文章の中に出てくる場合でも同じ数式用のフォントを用いて作成します．数式や数学記号の品質が悪いと版下原稿として受け付けませ明するか，もしくは本文の流れと関係ない場合には付録として本文末尾に置いて下さい．

数式はセンタリングし，式番号は括弧書きで右詰めにします．

(4) 図表の位置

　図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします．原稿末尾にまとめたりしてはいけません．また，図表はそれぞれのページの上部または下部に集めてレイアウトして下さい．図表の横幅は，「2段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表-1 や図-2 のように「1段の幅いっぱい」のいずれかとします．図表の幅を1段幅以下にして図表の横に本文テキストを配置することはやめて下さい．図表と文章本体との間には1～2行程度の空白を空けて区別を明確にします．

表-1 表のキャプションは表の上に置く．このように長いときはインデントして折り返す．

|  |
| --- |
| 資料番号　　　 高さ *h* (m) 　　　幅 *w*(m) |
| 1　　　　　1.45　　　　　 0.252　　　　　1.75　　　　　 0.403　　　　　1.90　　　　　 0.65 |

ケース2

ケース１

図-2 図のキャプションは図の下に置く

(5) 図表中の文字およびキャプション

　図表中の文字や数式の大きさが小さくなり過ぎないように注意して下さい．特にキャプションの大きさ (9pt)より小さくならないようにして下さい。

長いキャプションは表-1のように折り返します．

(6)　参考文献の引用とリスト

　参考文献は出現順に番号を振り，その引用箇所でこのように1)上付き右括弧付き数字で指示します．参考文献はその全てを原稿の末尾にまとめてリストとして示し，脚注にはしないで下さい．

参考文献

1)The Brookings Institution:Katrina Index，2006．

2)Federal Financial institutions Examination Council：Lessons Learned From Hurricane Katrina，2006．

3)木村秀治, 石川良文, 片田敏孝, 浅野和広, 佐藤尚：都市型水害における事業所被害の構造的特質に関する研究：土木学会論文集D，Vol.63 No.2,88-100,2007．

4)泰康範，目黒公郎：2000年東海豪雨における電力供給量の変動と浸水被害の関係，土木学会第57回年次学術講演会，2002．

5)中央防災会議「大規模水害対策に関する専門調査会」，2010．

6)中央防災会議「大規模水害対策に関する専門調査会」第4回資料2，2007．

7)住宅金融公庫監修・豊かな住生活を考える会著：図解日本の住宅がわかる本，pp119，141，PHP研究所，1994．

8)総務省統計局：住宅・土地統計調査．

　http://www.stat.go.jp/data/jyutaku/kekka.htm．

9)中央防災会議「大規模水害対策に関する専門調査会」第4回資

料3，2007．

10)経済産業省原子力安全・保安院，高圧ガス保安協会：液化石油ガス設備工事施工管理マニュアル（設備工事管理者編）．

11)河川事業の評価に関する研究会　第5回資料2－3，2013．

（河川技術シンポジウムの原稿作例を基本に作成）

別紙地生-II

技術研究開発年次計画・経費の見込み（記入例）

（研究テーマ名：　　　　　　　　　　　　　　）

（　　）に様式地生-1「③研究テーマ名」を記載してください

* FS研究の後、一般研究を５年間実施する場合の例（研究項目１-１、２-１を外注する場合）

単位：千円

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 研究項目 | R○年度 | R○年度 | R○年度 | R○年度 | R○年度 | R○年度 | 経費の総額 |
| （１）・・・に関する研究（１-１）・・・の測定（２）・・・に関する研究（２-１）・・・の解析 | 【FS研究】･･･の研究3,000･･･データ整備500 | 【一般研究】(１年目)･･･の研究4,000・・の研究3,000 | 【一般研究】(2年目)･･･の研究4,000・・の研究3,000 | 【一般研究】(3年目)･･･の研究4,000・・の研究3,000 | 【一般研究】(4年目)･･･の研究4,000・・の研究3,000 | 【一般研究】(5年目)とりまとめ2,000とりまとめ2,000 | 3,00016,0002,00050012,0002,000 |
| 1. 直接費
 | 3,500 | 7,000 | 7,000 | 7,000 | 7,000 | 4,000 | 35,500 |
| ②諸経費（上限（①×30%）） | 1,050 | 2,100 | 2,100 | 2,100 | 2,100 | 1,200 | 10,650 |
| 消費税 | 364 | 728 | 728 | 728 | 728 | 416 | 3,692 |
| 合　計 | 4,914 | 9,828 | 9,828 | 9,828 | 9,828 | 5,616 | 49,842 |
| うち外注費 | (0) | (1-1)･･の測定（1,000）(2-1)･･の解析（500） | (1-1)･･の測定（1,000）(2-1)･･の解析（500） | (1-1)･･の測定（1,000）(2-1)･･の解析（500） | (0) | (0) | （4,500） |

注１）研究の一部を研究代表者（または共同研究者）の所属機関以外で実施（外注）する場合は、各研究項目における外注の範囲、予算規模が明確に分かるよう区分して下さい（上記例の研究項目（1-1）、（2-1）を参照し、研究項目（１）及び（２）の計画額のうち、外注額を下欄括弧内に記入して下さい。）

注２）研究年度の欄については様式地生-5の金額と整合をとるよう注意して下さい。

注３）①直接費と②諸経費の合計金額は、千円単位（千円未満は切り捨て処理）となるよう、調整を行って下さい。

注４）各年の合計額が、応募分野の研究費用負担限度額（ＦＳ研究の場合500万円、一般研究の場合1,000万円）を超えていないことを確認して下さい。

別紙地生-III

研　究　者　デ　ー　タ（ 記 入 例 ）

※FS研究（新規課題）、一般研究（FS研究からの移行課題）:研究に参加する人数分の様式（様式地生-6）を作成してください。

※一般研究（継続課題）:研究年度以後の研究に参加する人数分の様式（様式地生-6）を作成して下さい。

１．氏名・生年月日

|  |  |
| --- | --- |
| ふりがな氏　　　名 | 生年月日（西暦） |
| こくど　たろう国土　太郎 | １９○○年○月○○日 |

２．（所属機関がある場合）所属機関名・部署名・職名・連絡先

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 所属機関名（勤務先） | ○○大学 | 部署名 | 工学部　建設工学科 |
| 職　　名 | 准教授 |
| 連絡先 | （〒○○○－○○○○）東京都港区○○５－３－２ | TEL：０３-○○○○-○○○○ |
| FAX：０３-○○○○-１２３４ |
| E-mail：t.kokudo@oo.ｊｐ |

３．最終学歴

|  |
| --- |
| ○○○大学大学院　○○研究科博士前期課程○○工学専攻修了（修士）○○大学　○○学部○○工学科卒業（学士） |

４．研究歴（主な職歴と研究内容）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 年　月 | 職　歴 | 研究内容 |
| ２００○．４２０○○．８ | ○○大学助手○○大学准教授 | ○○河川における○○の特性に関する研究○○○○検証研究 |

５．受賞歴、表彰歴

|  |  |
| --- | --- |
| 年　月 | 受賞名・内容 |
| ２０○○．８ | ○○学会「○○技術研究賞」 |

６．研究成果等

　・主な研究論文及び著書

|  |  |
| --- | --- |
| 1) | ○○河川における○○の特性に関する研究報告（19○○～20○○年）○○学会○○論文報告集 |
| ・特許等取得件数：　０　　件特許件名・研究成果：研究報告「○○に関する調査報告、○○県」２０○○年５月 |

７．他の競争的資金制度、補助金等からの助成の有無

（財団法人の研究助成事業等、国以外が行っている助成制度も含む。）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 研究制度名 | 研究開発課題名 | 研究資金の額（単位：百万円） | 研究期間 |
| ○○制度（△△省）　 | ○○に関する研究開発 | △△ | Ｈ○○～Ｈ○○ |

８．研究活動における不正行為への対応状況確認

①　国土交通省の策定した「研究活動の不正行為への対応指針（平成２７年６月２日改正）」の第４章の１.研究活動における不正行為の未然防止及び２.研究機関における規程・体制の整備及び公表について、以下の該当する全ての項目にチェックしてください。（規程等は、契約締結時又は採択決定時に提出いただきます。）

□所属する研究機関は、不正行為を未然に防止する観点から、コンプライアンス（法令遵守）に関する規範において、研究活動における不正行為を行わない旨の研究倫理に関する規程を定めている。

□所属する研究機関は、研究倫理教育等研究活動における不正行為の未然防止のための組織的な取組を実施している。

□所属する研究機関は、研究活動における不正行為の疑惑が生じたときの調査手続きや方法等に関する規程や仕組み・体制等を適切に整備し、その状況について内外に公表している。

□所属する研究機関は、上記項目のいずれも実施していない。

　（理由を記載：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

②□申請者は、研究資金（他府省の競争的資金等含む）で、不正使用、不正受給又は不正行為を行ったとして、研究年度に「その交付の対象としないこと」とされていません。
（上記に該当する場合は、□にチェックしてください。）

申請者氏名　国土　太郎

別紙地生-IV

技術研究開発成果等作成要領

１．目的

本公募において採択されたテーマ（以下、「研究課題」という。）は、担当部局との契約手続きを経て、実施することとしています。契約期間の工期末に納品される成果物に関して、必要な事項を定めることにより、研究課題の目的達成度や研究成果等を適切に把握し、研究成果の河川等の政策への反映見込み等を明らかにすることを目的とします。

２．提出書類の様式等

各研究課題の研究代表者は、以下の提出書類を作成下さい。提出部数は印刷物２部、電子データ１式（CD-R等）を基本とします。但し、契約時に地方整備局等の指示に従って下さい。

書類作成にあたって、文字サイズ・フォント等の指定が様式に無い場合は、見やすい文字サイズ（10P以上）、フォント（MSゴシック、MS明朝等）等で該当欄のスペースに収まるように記入し、用紙の追加は必要な場合を除き避けて下さい（「報告書」の頁数は制限なし。）。電子媒体（CD-R等）を提出する際には、ウイルス対策を実施した上で提出して下さい。また、ウイルスチェックソフトは常に最新データに更新（アップデート）して下さい。

●「報告書」

研究成果について研究目的から技術研究開発に至る結果を簡潔にとりまとめて作成し、文字及び図表は分かりやすく仕上げ、特に図表については当該位置づけを明確にして下さい。Ａ４判で製本して下さい。

●河川砂防技術研究開発「成果概要」（最終年のみ）【様式地生-10】

　これまでに提出された委託研究成果品（報告書等）を基に研究期間中に実施した研究内容について様式地生-10を用い10頁程度の総括研究レポートを作成して下さい。

なお、様式地生-10は公表予定となっています。

●河川砂防技術研究開発「成果の要点」（最終年のみ）【様式地生-11】

研究の背景・目的、研究内容、研究成果などを、図表等を効果的に活用しA4版4頁で簡潔に分かりやすく作成下さい。なお、様式地生-11（イメージ）に記載されている１．～６．の各項目及び参考文献は必須項目です。

上記成果品に係る著作権は、プログラム等の著作権を除き全て契約機関に帰属します。これらの原稿（電子形式）については、国土交通省のホームページ上にて公表します。

なお、研究課題の研究代表者等自らが、公表用資料及び成果レポートの全文または一部を複製・翻訳・翻案などの形で利用する場合には、その利用を妨げるものでありません。

ただし、研究課題の研究代表者等が研究成果を公表する場合には、事前に契約機関と協議して下さい。また、公表に当たっては、その内容が本公募で採択された委託研究の成果であることを明示して下さい。

（報告書　表紙及び背表紙の例）

令和○○年度　○○○○を用いた○○○○○○に関する○○開発　報告書　　　平成○○年三月　　国立大学法人　　○○大学

令和○○年度

○○○○を用いた○○○○○○に関する○○開発

報告書

令和○○年三月

国立大学法人　　○○大学

別紙地生-V

様式作成にあたっての留意事項

記入にあたって留意頂きたい点、ミスの多い箇所を中心に以下に記載しています。提出前にご確認いただきますよう宜しくお願いいたします。

応募時の提出書類

|  |
| --- |
| 【全体に関すること】* 規定の枚数に整合しているか。
* ○や△に適宜、数字や文字が記載されているか。

【様式地生-1　地域課題分野（河川生態）　応募様式（その１）】* 「③研究テーマ名」は、「別紙地生-I応募書類申請票」と同一になっているか。
* 継続課題の場合は、前年度と同一のテーマ名になっているか。

【様式地生-3　地域課題分野（河川生態）　応募様式（その３）】* 「⑪共同研究者」の欄に、研究代表者の氏名は不要です。

【様式地生-4　技術研究開発年次計画・経費の見込み】* 経費の計算ミス、単位間違い、「.」と「,」の使い方に間違いはないか。
* 継続課題の場合でも、初年度からの全期間の経費を記載しているか。

【様式地生-5　研究年度（令和〇年度）の必要経費概算】* 経費の計算ミス、単位間違い、「.」と「,」の使い方に間違いはないか。
* 研究年度（令和〇年度）の○に数字が記載されているか

【様式地生-6　研究者データ（共同研究者全員分）】* 「８．研究活動における不正行為への対応状況確認　①」にチェックがあるか。
* 「８．研究活動における不正行為への対応状況確認　②」にチェックがあるか。また、申請者氏名は適切か。（研究代表者ではなく、当該研究者の氏名を記載）
 |

中間評価・事後評価時の提出書類

|  |
| --- |
| 【様式地生-9　自己評価結果】* 自己評価結果は、２００字程度で記載されているか。

【様式地生-10　河川砂防技術研究開発　「成果概要」】* 「③研究経費」の計算ミス、単位間違いはないか。
* 「④研究者氏名」の欄に、研究代表者の氏名等は不要です。
 |